

福祉たすけあい基金 レポート

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金 横浜市港北区新横浜 2-2-15 6F TEL 045-620-9044

『福祉たすけあい基金レポート』は今号で終了となります。2025年夏号から『市民活動応援レポート(仮)』としてリニューアルします。

第22期 福祉たすけあい助成

8団体に総額3,285,176円を助成しました



助成団体情報は
こちらから

福祉たすけあい助成は、市民同士のたすけあいを広げ、誰もが豊かに暮らせる地域づくりをめざしています。今期は「協力者・支援者を広げる」、「参加者を広げる」、「認知を広げる」、「活動そのものを広げる」など、「広げる」がキーワードになっている活動が多くあり、その課題を解決するために、斬新な手法を編み出すといったチャレンジ性の高い内容が特徴でした。

- **いちはずつ処** (厚木市)
地域交流、健康維持のための高齢者が立ち寄れる場所の提供
- **NPO法人 あかり** (横須賀市)
リハビリ・カレッジ事業の立ち上げ/ストレスや社会のひずみにより、心の病や生きづらさを感じている人たちが心の元気を取り戻すくみづくり
- **NPO法人 街カフェ大倉山ミエル** (横浜市港北区)
不登校のこどもたちの自由な居場所「ミエルの里」をつくる
- **NPO法人 ハイテンション** (厚木市)
「スロパフェス」の開催/音楽・ダンスを通じた、年齢や世代、障がいの有無や国籍などを問わない様々な人の交流促進
- **NPO法人 いごこちよか** (相模原市中央区)
障がい児・者のための毎日が充実するワークショップの開催
- **THEアート・プロジェクト 多文化読み聞かせ隊** (川崎市高津区)
障がいのある方たちが中心になって演じる「かぐや姫」の発表
- (特非) **ぐるーぷ・ちえのわ** (横浜市戸塚区)
不登校児童生徒の多様な学び・交流の場づくり
- (特非) **スペースナナ** (横浜市青葉区)
市民活動における担い手の育成事業

(特非) = 特定非営利活動法人

福祉たすけあい基金 & まちづくり基金学習会

活動報告

国際夫婦漫才コンビ フランポネと考えよう 「地域をより良くするためにできること」開催報告

記事 熊谷百合子さん(かわさき生活クラブ理事)



6月に高津センターにて、第20期福祉たすけあい基金助成団体の「チームフランポネ」を招き福祉たすけあい基金学習会を開催しました。川崎市を拠点として活動している吉本興業所属の日本人のマヌーさんとスイス人のシラちゃんの夫婦漫才です。「お笑い力で社会貢献を」をスローガンに、自立支援や言語講座など幅広い活動を展開して、おおぜいの人たちを笑顔にしています。

日本語以外の言語での漫才や、障がいがある人たちへのサポートとして漫才作成講座を行い、コミュニケーション

ン能力の向上や多様性の理解を目標としているD-1グランプリの開催にも講師陣として参加しています。ダウン症のある人たちの漫才の話を知って、障がいや、その親への理解も深まったようでした。お笑いの力で世界を変えていくという心意気に、「いいね」の笑顔が増えました。私たちの月100円の寄付は活きているお金であり、基金は助成して終わりではなく、生活クラブでその活動を広めて共感を集めることで、地域がより良くなることに幾重にも貢献していると実感できました。かわさき生活クラブはみんながチームフランポネの応援団です。



理事長からのメッセージ

コロナ禍で行政より先に子どもを支援した市民団体

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金 理事長 荻原 妙子



新型コロナで突然休校になった時、十分に食事が得られない、学ぶ場が失われた等、苦しい状況に置かれた子どもたちがいました。行政支援は時間がかかり、ルールに合わない人へ支援はできません。給食がなくなった子どもたちに、いち早くお弁当や食品を届けたり、オンライン学習に対応したのは地域で活動する市民団体でした。コロナ収束後も格差貧困は拡大しており、市民のボランティア活動は広がっています。子ども食堂、フードパントリー、無料学習会、誰でも立ち寄れる居場所。市民活動は困難に



オンライン学習をする生徒

づいた人たちが無償で行います。活動に必要な食品は「フードバンクかながわ」が提供し、物品の購入や家賃などは、「かながわ生き生き市民基金」が支援できます。

市民基金は生活クラブ組合員の寄付で運営されています。これまでの活動の中で頂いた声を紹介します。

「目前の課題を自分たちで解決していくという姿勢に感動しました。安心して居られる場所、人の繋がりが今、本当に必要とされていることを実感しました。月100円の寄付をこのように現実を動かす力に変えていただき感謝です」
(福祉たすけあい基金贈呈式に参加した組合員より)

「コロナ禍で無料塾でもタブレットやパソコンが急速必要になりました。初期費用捻出はボランティア活動では難しいと思いましたが、市民基金から助成を受け、機器類の購入とICTスキルアップの研修を受けることができました」
(助成団体より)

1か月100円「組合員寄付の大きな価値」に感謝し、寄付の継続をお願いいたします。

第3期 子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成

助成団体訪問

特定非営利活動法人 さがみはら子どもの居場所サミット (相模原市)

取材/記事 矢野 克子さん(生活クラブ神奈川副理事長・かながわ生き生き市民基金理事)

「さがみはら子どもの居場所サミット」代表理事の佐竹輝子さんは、相模原市南区にある相武台団地でコミュニティカフェ「ひばりカフェ」を経営する傍ら、同じ団地の一角で子ども食堂を立ち上げ9年になる。「子ども食堂の活動は、たくさんの企業の応援があって成り立っている。完全なボランティア活動だが、お金に変えられないものを頂いている」と語る佐竹さんにぐっと惹きつけられた。



活動を続ける中で運営のマンネリ化、スタッフの高齢化が進んできていることや、市内には50ヶ所程の子ども食堂があるが、横のつながりが全くなく、情報の共有が必要ではないか、先のことを考

佐竹さん(左)と矢野さん(右)「ひばりカフェ」にて

えると今までのままでいいのかが等、はがゆい思いを募らせ、2023年、手探りで賛同する団体と自治体や企業の広報協力も得て、初めて「子どもの居場所サミット」の開催に至ったとのこと。活動を次の世代につなげていきたいという思いで50名の学生を集めた。2回目となる今回は、学生や青年部、子どもたちが主体となって開催できるよう準備を進めている。また、企業も巻き込んでいきたいとも語る。「子どもの居場所サミット」は、すでに地域で活動している人たちとこれから何か始めたいという人、まだ課題に気づいていない若者や子どもたちにとって新たな気づきや体験につながる場だ。そこに自治体や企業が加わることで地域の課題解決の大きな力になるのだと感じた。11月30日のサミット開催が楽しみでならない。 子どもサミット詳細→



「さがみはら子どもの居場所サミット2023」で挨拶する佐竹さん



第3期 子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援助成

県内で無料塾・フリースクールなど学習支援を行う市民活動団体

16団体に総額120万円を助成しました

●日本における困窮者支援の現状

日本では「自己責任論」が根強く、貧困者や弱者はその人自身の努力が足りないと考えられる人が多く、その支援には消極的な傾向にあります。また、福祉の提供は政府や他者が行うのではなく、家族・親族の間でなされるべきとの考えも根強く、少子高齢化が進み、核家族や単身世帯の増加により家族・親族による自助が崩壊し、政府や行政による公助が不十分な中で、改めて地域の人々のつながりによる共助が求められています。

●市民の共助により貧困の連鎖を断ち切り、希望ある未来に向けて

貧困者の状況を見ると男女賃金差がある女性のパート労働などの非正規労働者、とりわけ母親一人で子どもを養う母子家庭の場合が多く占められています。また、子どもの貧困問題は不登校やいじめ、虐待事件の増加にもつながると考えられています。こうした状況を踏まえ2024年6月に「子どもの貧困解消法」が成立しましたが財源などの問題からその実態は民間の共助のしきりに依存しているのが現状です。特に、世代を超えた貧困の連鎖とならないようにするためにどんな場合でも子どもの学ぶ機会が安定していることがとても重要です。この基金では県内で無料塾・フリースクールなど学習支援を行う市民団体活動を支援していきます。



今回申請された活動は、それぞれの活動エリアや支援対象に向け、課題の抽出が的確にされており、効果の見込める活動が多くありました。

助成団体情報は
こちらから



- (特非) バンブーまなび塾 (横浜市港北区)
- たすけあい (小田原市)
- 長後寺子屋ぼかぼか (藤沢市)
- 相模原みのり塾 (相模原市緑区)
- たすき塾 (横須賀市)
- ひばり野のなかま達 (平塚市)
- (特非) デジタルコンテンツ研究会 (相模原市中央区)
- 無料学習支援 学び場「ここから」(相模原市南区)
- TIEトマトマの会 (横浜市神奈川区)
- (特非) さがみはら子どもの居場所サミット (相模原市南区) 訪問取材
- アクティヴ・ママ (座間市)
- NPO法人 街の家族 (横浜市青葉区)
- (特非) スマイルパートナーズ (横須賀市)
- (特非) メダカのお弁当 (相模原市中央区)
- (特非) 太陽の村 (相模原市中央区)
- (特非) 育ち合い広場・とてとて (藤沢市)

子どもの貧困に立ち向かう市民活動応援基金

101万円から寄付を受け付けています！

これまでに市民や団体より累計510万円の寄付が寄せられました。この助成を今後も継続していくために引き続き寄付の募集を行います。

皆様からのご支援をよろしくお願いたします。

この寄付は優遇措置を受けることができます(要確定申告)。詳しくは財団ホームページをご覧ください。

寄付の方法

かながわ生き生き市民基金事務局までご連絡の上、下記の口座にご入金ください。

口座名義:公益財団法人かながわ生き生き市民基金

振込先:ゆうちょ銀行

ゆうちょ銀行から▶記号番号 00220-6-102971

ゆうちょ銀行以外から▶〇二九店(ゼロニキュウ店) 当座 0102971



フォーラム開催告知・第1弾

無料学習支援活動から地域で支え合う
ネットワークづくりを考える

子どもの「今」を支え、「希望ある未来」へつなげる
市民活動応援フォーラム

日時 2025年2月8日(土) 10:00~12:30 場所 オルタナティブ生活館 スペースオルタ

◆基調講演「無料塾の必要性と可能性」(仮題)

講師:小宮 位之氏 (認定NPO法人 つばめ塾理事長 / 著書「無料塾」という生き方)

◆パネルディスカッション コーディネーター:鈴木雄大氏 (NPO法人 メダカのお弁当理事長)

※申し込み方法等詳細は決まり次第、ホームページでお知らせします。

第10回 相続セミナー & 個別相談会

日時 12月5日(木)

場所 オルタナティブ生活館
5階 まなびや
JR、横浜市営地下鉄、相鉄、東急
「新横浜」駅より徒歩約7分

参加費
無料



第1部:相続セミナー 13:30~15:30 定員 会場15名
★別途オンライン参加も受付

「~いざという時に困らないために~
相続の基礎知識と遺言書の書き方について」

講師 内海光弥氏 (新横浜法律事務所 弁護士)



「令和6年4月施行 相続登記の申請義務化について」

講師 清水保代氏 (司法書士、清水司法書士事務所所長)

不動産相続から3年以内に相続登記の申請が必要になりました。

第2部:無料個別相談会 要事前申し込み・お電話でご予約ください

①15:30~ ②16:00~ 定員 各枠先着2名(計4名)

★第1部相続セミナー会場参加者から希望者 ★定員を超えた場合、当日ご都合がつかない場合は、専門相談員による無料相談をご利用ください。

前回
受講者の声

●相続人はしっかりとした遺言書を作成し、相続人の将来に有益になるように考えることが重要であることがわかりました。書き方など具体的に示して説明して下さったところが参考になりました。

●夫婦で参加したので、食い違っていた知識が修正され共有でき良かったです。

専門相談員による
相続に関する
無料相談
随時受付中

かながわ生き生き市民基金では、専門相談員と連携して相談に関する問題やトラブル、遺言、遺贈寄付など、相続に関する全般的な相談を実施しています。無料相談をご希望の方は、電話でご連絡ください。弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士の資格を持つ専門相談員にお任せします。 ※初回相談(30分程度)は無料。それ以降は有料となります。

▼▼ 相続セミナー・個別相談の申し込み・問い合わせは下記まで ▼▼

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6階
TEL:045-620-9044 info@lively-citizens-fund.org
※お電話の受付は平日9:00~17:00になります。

